

会議結果報告書

1. 会議名 令和2年度 第4回 印西市環境審議会
2. 日時 令和3年2月1日（月）14：00～16：30
3. 場所 市役所附属棟23・24・25会議室
4. 出席委員：岩井会長、鈴木委員、丹澤委員、片倉委員、富澤委員、石川委員、山本委員、湯浅委員、押田委員
事務局：土屋（環境経済部長）、清水（環境保全課長）、黒田、清田（環境保全課）、エヌエス環境株式会社
5. 傍聴者 2名
6. 配布資料
 - ・会議次第
 - ・資料「印西市の環境の変化と現状」
7. 内容
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議題
 - ①印西市の環境の変化と現状について
事務局より資料の説明
会 長：印西市の環境の変化と現状について、事務局より説明があった。それでは、項目ごとに委員からのご意見を頂くという形で進めたいと思う。時間の都合上、項目ごとに10分程度でお願いする。1番の自然環境についてご意見がある方は。
委 員：「環境の現状」にある「里山・樹林地の保全」について、「本市では、武西地区や結縁寺地区などに里山が残されており」とあるが、里山や谷津は本埜や印旛地区にもあるため、「など」とついているのでそれらも含まれるのかもしれないが、限定的でない表現の方が良い。もう一つ、「生物多様性の保全」について、今は圃場整備されてきて、ため池の数は少ないと思う。調整池はあるが、従来農地にあったため池はほとんどない。そのため、水辺環境が豊かであるというのは現状認識として間違っていないが、残念ながらため池は少ない。
事務局：仰る通り、昔ながらの農地にあるため池としてはほとんど少なくなってきていると認識している。資料では、防災用調整池などを含めてため池と書かせて頂いた。
委 員：ため池は生態系から見て良い機能を持っているため、指摘している。生物多様性と言ったときに関係するのは従来のため池であり、調整池はあくまでも洪水調整のため、一般的に環境ネイチャーの方々は、生物多様性から見ると異なると捉えている。

- 会 長：その他にご意見がある方は。
- 委 員：ため池について、一番豊富であるため池というと、印西市の草深にあるおそろく池がある。ゴルフ場の中に入ってしまったのがいくつかあるが、東の5番コースの左側にあるのが一番大きいため池ではないか。岩戸と吉田の間を流れる川の源流がため池だったという話であるが、そこは草がたくさん生えてしまい、草をきれいにすれば長閑で素晴らしいと思う。きれいな水が流れてきて、それが農業用水になっている。
- 委 員：私が言ったのは表現の話である。
- 委 員：そういうものもあるという話である。
- 委 員：従来に比べると非常に少ない。
- 会 長：印西市においてため池と言うと、そんなにはない。手賀沼、印旛沼と湖はあるが、造成のために遊水池は作りなさいとなっており、ため池というのではなく遊水池になっている。他にご意見のある方は。
- 委 員：押田委員の意見に対する追加となるが、里山・樹林地の保全の2番目のところに、「里山観察会」や「亀成川ホテルの里クリーン作戦」が書いてある。何年も前から始まっていることだが、今、印西市では最初の頃と比較して、里山保全に関する市民活動やイベントが増え、内容も多様化している。次の計画の時には、団体の行っている活動を市民に広めたいと思う。時代が変わって、「里山観察会」や「亀成川ホテルの里クリーン作戦」だけでなく、里山の大切さを感じている活動家がそれぞれの活動をしているため、可能であれば、市民活動支援センターなどに行き、里山系の活動団体が何をしているかを見て、場所なども書き加えておくということで、先ほどの押田委員のご意見を完成させることが出来るのではないか。全体的に見ても、昔からやっているものに関しては書いてあるが、現在になってやり始めて継続していることは書かれていない。それは次の時代に、市民が環境保全について能動的に動くことに対し、とても大切になってくるため、それらを応援するためにも書いておかれた方が良いと思う。
- 会 長：私の方からも何点かお話ししたいことがある。隣の市では、里山保全グループが里山だけで50組織ある。印西市としては、これだけ自然が豊富な場所であるので、もう少し市民参加型の里山組織を地区別に1つぐらいあるような形で作ってはどうか。もう一点、千葉県森林研究所で7月と8月の2か月間、山を調査したところ、「ナラ枯れ」という病気が発生しており、目には見えないが、とんでもない数量の被害が発生している。ナラ枯れというのは、基本的に日本海側の新潟方面から発生し、関東までは来ないだろうと思っていたが、南側から北上し、今は特に千葉県の中南部で被害が出ている。去年も山で虫の調査をしたが、非常に多いということが分かった。その虫の名前は「カシノナガキクイ

ムシ」といい、コナラ、シイなどの木に出ると言われている。カシノナガキクイムシを退治しない限りは被害が減らないということで、ついこの間、草深の森を2回調査したが、草深の森だけで概ね100本は食害されている。ここで早めに対処しない限り、被害は広がり、草深の森も広葉樹が全滅するだろうということが見えている。それは草深の森だけでなく、印西市の森、特にコナラ、クヌギなども入るので、出来ればこれを森林環境譲与税を用いて伐採、処分して、虫の媒介を抑えなければ、印西市内の広葉樹系は一切なくなるのではないかと思う。

委員：今、それについては大きな問題になっていると私も認識している。そういった意味では、この課題に入れて頂いた方が良いのではないか。

会長：特に大径木に入りやすい。絶対入らないというものではないが、若い木には入りにくい傾向がある。草深の森では、すでに100本近く虫が入っており、虫の卵があるため焼却処分、切り株については殺虫処理という対策を取らないと、今後は危険である。

委員：もう一つ課題として入れて頂きたいと思う。5年に1回の頻度で自然環境調査をやっているが、都市化の進行や今のような状況が見られることを考えると、5年に1回では期間が長過ぎるので、例えば3年に1回など、予算を確保し、もう少し高い頻度でやっていただくことが必要だと思う。

事務局：自然環境調査について、現在は5年に1回のところをもう少し頻度を上げてというお話であるが、やはり予算的などころとしては厳しい状況である。先程のナラ枯れについては予算措置を取っており、次年度についても森林環境譲与税使えるということで、対策を検討している。

会長：ご意見がなければ次へ進みたいと思う。では、次の生活環境についてご意見を伺いたい。

委員：皆さんもご存知だと思うが、印西市は手賀沼と印旛沼があり、環境省の方から令和元年度における公共用水域の測定結果が公表され、毎回、手賀沼と印旛沼がワースト5に入っている。今のCOD公表値では、印旛沼が平成30年度に平均12、令和元年度に平均11.2、手賀沼に関しては、平成30年度に平均9.2、令和元年度が平均8.9であり、順位は変わっていない。ずっとそれなりでありつつ、少し下がっているが、令和元年度は丁度10月19日の大雨があり、水質を確認すると印旛沼は水が入れ替わり、ほぼ河川と同じような水質を示していた。それから見て、やはり水循環・水の流れが問題になってしまうのかと思う。併せて師戸川について、師戸橋の方で平均値を見させて頂くとBODは低いが、CODは沼と同じように季節によって上がっていくということで、ほぼ流れがないところである。前回の審議会でも言われていた通り、浄化槽関係の汚い水が流れている。河川が流れている中に入ってくれば自浄作用があるが、自流が

ほぼない状況でどんどん悪い排水が入って悪化している。前の頁の話にもある通り、ため池や皆さんの見られている河川以外にも、昔使っていた道及び雨道というのは水が流れていた場所であるが、それが今は全部枯れてしまい、図面だけの水路になっている。ただ単に水を溜めておけば良いのではなく、水の流れ・循環を今後は考えていった方が良いのかと思う。

委員：これは印西市としてできることか。

委員：市としてというのは、少し難しいことではある。

委員：合併処理浄化槽の普及率を上げるということは、印西市でも出来ることである。

委員：合併処理浄化槽にすれば河川にきれいな水が流れるので良いが、全てが下水に行き、東京湾または利根川に入ってしまうため、本当はきれいに水の流れし、生活におけるサイクルを作って頂きたい水が出ないで、大きい方に行ってしまうという形になる。現状では、排出している水の浄化保全の啓発を推進するということになるかと思う。

会長：他に生活環境についてご意見がある方は。

委員：私の住んでいる方は水道が通っておらず、地下水であるため、水質検査がされている。そういった地域に水道整備をして頂くと言うのが一番問題であるが、そういった取組は市としてなかなか難しいのか。

事務局：水道事業として、上水道の整備としては採算性や水源の確保などから計画を立てて進めるが、基本的には市街地の周辺になるのが一般的かと思う。ただ、それ以外の様々なところに居住地域は点在しており、井戸水についてご相談は受けしている。水質に問題がある場合は、飲まれるのではなく、他の生活に使われるのは良いのか、あるいはどうしても飲むしかないのであれば最低限煮沸する、あるいは浄水器の設置を指導する等、その辺りを今後も継続して実施していきたい。

委員：どれほど合併処理浄化槽の普及率が上げようにも、近くの飲食店などを見ると難しい。水道が来ていないと下水道も整備されていない。そうすると、新しく家を建てる場合は合併処理浄化槽が条件になるが、昔からある家は進まない。それが実態であり、そこにメスを入れていかないとなかなか難しい。

委員：条例などが定まらない限り、既存地区への普及はなかなか難しい。費用対効果で家屋が集中していれば良いが、散在している。

会長：それでは、次の都市環境に話を進める。ご意見がある方はお願いします。

委員：「都市としての魅力があふれる」という部分を読んだとき、まず印西市は都市なのかと思った。住環境としての魅力があふれるということだと思うが、それは置いておいて、環境美化の推進ということで夜間の不法投棄パトロールの実施や監視カメラの設置など、それは実際にどの程度やって頂いているのか。

事務局：パトロールは委託で年 100 回ほど回っている。市職員でも、関係各課を集めて行っている。

委員：関係各課の職員とはどこになるのか。

事務局：クリーン推進課や環境保全課、あるいは土木管理課などになる。監視カメラの方は、現在は 85 台ほど設置しているが、さらに 10 台ほど増設したという話を聞いている。

会長：ごみの件について、人のいない地区に畳などが捨てられる傾向があるのではないかと思う。ある集落では、赤い小さな鳥居を置いておくところには捨てられにくいという方法を、地域ごとにやっている。こういった例も参考になるかと思う、やって頂ければ良いのかと思う。

委員：不法投棄の抑止について、見えない所に捨てていくというのが多い。うちの団地も、印西から佐倉の方に抜ける道があり、その途中に生活ごみや冷蔵庫、洗濯機、テレビ、布団など色々と捨てられた時期があったが、その時は機関の方に連絡して回収して頂き、住民も手伝って綺麗にした。綺麗になると、やはり捨てるのが辛いのか、改善する傾向にあるが、見えにくいところには捨てていく。道路側にある林などへ捨てていくので、林や畑は持ち主の人にきれいにしてもらえるように言うのは良いかと思う。

会長：藪になっていると隠れるので、目に見えない所に人間は捨てる習性がある。

委員：その通りである。そういった点をきちんと記述して頂きたい。

会長：里山でも、森林や農地でも、草が生えていたり人目につかないと、ごみが捨てられたり、野生動物の住家にもなってしまうので、持ち主にどうにかしてもらうのが一番手っ取り早いですが、集落単位できれいに草刈りなどをして管理して頂ければ、ごみの不法投棄も減り、野生動物の住家にもならないと一石二鳥である。そのため、市民の皆様にきれいにして頂けるよう、担当部署でチラシや広報などによる呼びかけに努めて頂ければ良いかと思う。

委員：少々堅い話になるが、廃掃法の第 5 条において、土地管理者は廃棄物が捨てられないように、または捨てられた時も清潔に保つように定められており、もしも管理する土地にごみが捨てられた時は、それが土地管理者の責務であるとなっている。「清潔の保持等」というところに産廃についての明記はなく、普通に捨てられているごみは自分の管理域に捨てられている場合には清掃をしなければならないという義務が課せられている。やはり自分の土地は出来るだけ自分で管理して、綺麗にしてくださいという点は考慮すべきかと思う。先ほどの話でもパトロールとカメラについてあったが、カメラについては見せるカメラと監視するカメラと両方あると思う。絶対にやられたくなければ監視カメラを設置するという形でやるのと、ここは追い返し難いと、毎回捨てられていてどうしようもないという場合はカメラを設置し、車両から本人まで撮るという方法

があるが、市の中ですべてを網羅するのは難しいと思う。そのため、ごみが捨てられまだ片付けられない場所には見つけるためのカメラを設置し、その他では見せるカメラ、ダミーという手もあるが、そういう形での設置というのもあると思う。

会 長：他に都市環境について意見のある方は。それでは、次の地球環境に進みたい。地球環境についてご意見のある方はお願いします。

委 員：このテーマは印西市として出来る内容なのか。例えば営農型太陽光発電を課題として挙げておられるが、この辺りにあるのか。

事務局：印西市としては営農型太陽光発電はやっていない。

委 員：これからこういったことを推奨して、普及させていくということか。

事務局：こういったことも考えられるとして、一つの案として入れさせて頂いている。

委 員：印西市としての電力消費量を出しているが、これはどういうところから得られるのか。

事務局：こちらの値は国の公表資料における値であり、印西市を含めた各自治体について推計値として出されているものである。

事務局：補足になるが、各自治体についてどれほどの電力を使っているかは電力会社が値を出すことが出来る。しかし、新電力の普及に伴い、大手の電力会社からは印西市内で使っている電力量の値を出さなくなっている。この値と言うのは国の方で出しているものであるが、例えば千葉県内の電力使用量を人数割したりして、推計値として出しており、実際に印西市内で使われている電力使用量とは差があると思われる。ただ地球温暖化対策を進めていく上で、千葉県あるいは東京都などの七都県市では、この電力の値を提供してもらえないかという要請を国にしたと言う話が最近あった。そのため、今後変わるかもしれないが、今、出しているのは推計値ということをご理解いただきたい。

委 員：よく理解できた。

委 員：ここの再生可能エネルギーに関して、大規模な発電施設は作られなくなってきていると思うが、農地で太陽光発電をするのが正しいのか、あるいは農地はやっぱり緑地として活かすのが正しいのか。どうしても電力との兼ね合いで発電を行いたいならソーラーシェアリングなどがあると思うので、この街でどうするのが一番環境に対してメリットがあるのかを考える必要がある。

会 長：今は農家の後継者不足が問題になっており、つい数年前までは太陽光発電の設置がかなり多かった。でもここ1年ぐらいはぐっと減った。売電単価が下がってきているためかと思われる。

委 員：営農型太陽光発電はご存知か。骨組みを組んで、パネルを載せ、下では作物を作ることができるようにしている。

委 員：だから、完全に遮断ではないのか。そういう面で、農作物を育てる上では配慮

しているという方策になるのか。

委員：そうだと思う。もしどうしてもソーラーパワーが必要ということであれば、そういう方法がある。

会長：そのように下を使うとなると、県の農業委員会等にも調整をしなければならず、そうするとほぼ全面が太陽光となる。酒々井で一か所やっていたが、印西ではないはずである。実際にやるとなると難しい。再生可能エネルギーとなると、今は大多喜町では道の駅で再エネを入れており、バイオ燃料として木材を利用している。昨年の12月には、県の事業で私の山を使って調査をしたが、山の木で木材として利用可能なのは多く見ても2割である。森林が管理されていないということで、荒廃している。曲がっていたり、節が多かったりということで、木材としての利用価値があるのは2割である。残り7割以上は、切ってもそのまま山の中に放置となる。一昨年の台風でも倒木が発生しており、私としてはそれらもバイオ燃料に回すというのが良いかと思っている。木材よりバイオ燃料の方が価値があり、出来れば森林保全をし、バイオ燃料とすることを推奨したい。

委員：バイオチップ燃料の発電所は確かあると思う

会長：千葉県にもある。酒々井でも道の駅でバイオ燃料を使っている。あと静岡にもある。各県にバイオチップを使える施設を作った方が私は良いと思う。せっかく数十年育てた木を切り捨てるのは勿体ないと思うため、それらを活用できるようにしないと、今後の森林は荒廃すると思う。続いて他にご意見がある方は。

委員：印西市でできることは、グリーンカーテンや住宅の省エネルギー設備か。他では公民館など、公共施設における太陽光発電設備を結構やっているが、印西市ではあまり聞かない。

事務局：公共施設では、市役所のほかに公民館や出張所などかなりの数があるが、それらが毎年順次、大規模改修などを行っている。その際に太陽光発電設備を入れたり、あるいは蛍光灯をLEDにするだけで二酸化炭素の排出量は全然違ってくるため、市の庁内エコプランの中でも目標を立てており、再エネ設備や省エネ機器の導入というのは積極的に行っている。

委員：そういった取り組みの効果は大きいのか。

事務局：そう考えている。

会長：他に地球環境に関してご意見のある方は。

委員：地球温暖化の4-2について意見がある。現状の4段落目、現在は発生頻度が年間約0.2回のところが3倍になるとある。これは県から出ているデータか。気候変動への適応ということで適応策についてであるが、これは難しい。地球温暖化の影響であると思うが、いわゆる雨水が極端に減ったり、被害が増すな

ど、印西市としてどうするのか。今世紀末における気候変動の影響予測というデータを頂いているが、出典はどこになるのか。

事務局：環境省の公表するホームページで、気候変動に係るデータを集約しているものがあり、そこから印西市に関係するものを載せている。

委員：透水性舗装の整備を進めているとあるが、どのあたりか。透水性と言うと新しい技術で雨水を浸透させていくものである。従来はコンクリート舗装のように、雨が降った後、水が流れてしまうものであるが、透水性の舗装であれば浸透していくから、地下水の保全につながり良いものである。しかし、印西市は財政的に難しいのではないか。

事務局：車道すべてとなると厳しいものがあるため、新規に整備するところなどを中心に透水性を取り入れるということで進めている。

委員：災害時における手動式の井戸などは、団地などでいざ水が停まったときにあった方が良くと思う。

会長：他に地球環境についてご意見がある方は。

委員：一点だけ、4-3にある市民の意識について、これは市民意識調査などのアンケート結果なのか。対象者数は、どのくらいの量をしたのか。

事務局：アンケートは市民2,000人、事業者は200事業者に対して実施した。

委員：リサイクルに課題があるという話だったが、どのような点が課題なのか。リユース、リデュース、リサイクルで3Rというが、リユースは使えるものは使いましようということで、リデュースは省資源化、リサイクルは自分一人ではできないことである。意識としてリサイクルに努めるとしても、自分ではできないことなので、アンケートとしてはこのように出てしまうのかと思う。

事務局：これはアンケートの結果であるが、書いてある通り、「ごみの分け方、出し方を守る」、「マイバッグを持参する」と言ったところは意識してやって頂いているところではあるが、「リサイクルに努める」ということへの意識が弱いのではないかということがこの結果からは出ている。

委員：しかし、ごみの分別しているのは結果としてリサイクルに繋がっているのではないか。なので、リサイクルに努めるかどうかという、アンケートの設問がそもそもどうなのか。

事務局：「リサイクルに努める」というのは、例えば本を買って、それをリサイクルに出すといった感覚のところである。

委員：了解した。

会長：他にご意見のある方は。なければ、最後の人づくりについて移りたいと思う。人づくりについてご意見がある方は。私の方から一つ、先ほどの説明時に市の保全団体が25団体あるとあったが、それはどういう区分け内での団体数なのかお聞きしたい。

- 事務局：市内で環境に関連している団体が 25 団体ある。中央駅前にある市民センターに登録している団体や、その他に市で把握している団体を合わせたものの中から、環境に関連するものを抽出した数である。
- 会長：近隣の市と比較すると、団体数がかかなり少ないのではないかと考えている。各町内会の集まりでも、参加しない地区があるような話を聞いてもいる。もう少し行政として、環境についての人づくり、組織づくりを頑張ってもらわないと、段々と衰退していくのではないかと考えている。この表で見ると、平成 28 年度から団体数は少しずつ増えているように見えるが、もう少し何とかしないと、印西市内の環境保全、自然保護をやっていくには難しくなっていくのではないかと。今はまだ高齢者が一生懸命頑張っているが、残念ながら難しくなっていくように見受けられる。
- 委員：私が参画している団体では 70 歳代が多い。冬になると毎週のように整備作業があるので大変である。
- 会長：活発な活動をしているか。
- 委員：一応高齢者が頑張っているが、50 代や 60 代前半が参画してくれることを期待している。小さいお子さんのいる世代はまだ大変であるが、子どもが育った後に参加してくれれば、後継者不足は確かに課題である。
- 会長：それを考え直さないと、今まで活躍していた団体、グループがどんどん衰退していくのではないかと考えている。若い人たちも含めて人づくりをしなければ、印西市の環境を維持するのは難しくなってくるのではないかと。
- 委員：ここは印西市でできることなのか。
- 委員：地球環境の方はテーマが大きいですが、人づくりの方は市が仕掛けていくことが出来る。
- 委員：今印西市では、まだ人口が増えている。子どもを持つ親が千葉ニュータウンを選んで来るということは、印西市の自然環境が良いと思い住み始めているという経緯があり、そこに働きかけをしたいと私たちは考えている。里山団体であれば、子どもたちを呼んで、その親にも来てもらう。教育センターで里山観察会をやっており、市で行っているイベント、市民団体が行っているイベントなどが一つのもので発信されておらず、バラバラである。しかし、それらが一つになってくると大きなチャンスになる。そのために何をするかというと、ここに書かれているが、環境に関連する情報発信の一元化である。今、私たちがイベントをするときは広報を出しているが、環境保全課のイベントと我々のやるイベントが、広報だと市民にとってバラバラの情報になっている。印西市も人口が増え、都市として成熟してきていると思うため、環境に関連するイベントはこういうものがあるという風に出して、一元化していった方がいいかと思う。また、環境の課題というところを見ると、「取り組みが求められる」等、

まだ投げている気がする。本当は、その求められる取組の向こうの、何をすべきかという具体的な取組が必要であり、そうしないと次の計画を作るときも、また同じ文言で「求められる」が続いてしまう。もう一つ重要なのが、国は2050年に脱炭素化しようとしているが、今国がそこに向かっていているということは、印西市にとってチャンスだと思う。印西市ほど、都市機能と自然が融合している街というのはなかなかないため、今がチャンスであり、今からやらなければならないという気がしている。

会 長：他にご意見のある方は。

委 員：情報発信の話があったが、現状の市の取組としてSNSを活用した情報発信とある。これはTwitterかFacebookなどでやっているのか。

事務局：Twitterである。

委 員：皆さん知っているか。Twitterは使っているか。

委 員：あまり使っていない。

委 員：私もそうである。だからワークショップなど、コロナが沈静化した後のイベントとして、次の世代を育てる仕掛けをして頂きたい。

委 員：環境フェスタなどもいつも同じ人が出ている。人口が増えてきている中、関心がある方へ呼びかけるなど、そういったことがあっても良いのかと思う。

委 員：里山整備の実践者であるグリーンセイバーなど、そういった人を増やしてほしい。そういう人材をいかに育てるか。

委 員：印西市の良い所は人口の多い都市部と里山が隣接しているところであり、今、人口が増えているところの人たちが里山環境に関心を持ち、体を動かし始めてくれると非常に良いことに繋がる。そこの仕掛けを作るということを一つの目標として、一つのビジョンとして、そこに向かって動くとなれば良い。今はみんなバラバラであり、その地域、その時で動いている。

委 員：薪ストーブが若い人たちに最近流行ってきている。薪ストーブの材料を作れるように誘導するとか。

委 員：里山の林地保全をすると、御褒美に薪がもらえるとか、そういった仕掛けを作るということか。

会 長：他にご意見のある方は。

委 員：教育支援について、私の地区は旧印旛村地域で子供が少ないが、保護者は熱心である。しかし、どんどん人口や世帯が増えている地域の方々の勢いというのは感じている。うちの方だけだとやっぱり難しく、人口減少にあらがえない。同じ年齢くらいの家同士が隣同士に家を建て、同じ年齢くらいの子どもがいて、学校に沢山の親が集まるということは、それだけでマンパワーがあるという風に捉えた方が地域の活性化としては良い。田舎は全く同じメンバーで同じことをしているが、新しいことをするのはなかなか難しい。都会というのはそ

れだけ人が集まり、やることがあって良いと思う。地域の活動などを見ていると、やはり魅力がないと来ないのかと思うが、有名企業とのタイアップや美味しい、癒しなどの要素がないと、今の親は何かをやってもなかなか腰が重い。学校というのも継続的にやっていくことを期待されると難しいが、魅力があつて、そのアンテナに引っかかるものがあれば集まりやすいというのは大きいと思う。都会として発展している方のエネルギーやそちらの方の考え方の引っ張り具合で、逆に田舎が引っ張られていくのではないかという気がしている。

会 長：他にご意見がある方は。

委 員：SNS の話に関連し、小学生くらいのお子さんが、水辺に何か生えていると思ったら、それを載せるような掲示板があれば良いと思った。それで、皆さんが情報を発信したり、LINE や Twitter、Facebook のように交流するようなものが一つあれば良いと思う。そこでは情報も得られるし、交流もできると思うので、そういうのを進めて頂きたい。

委 員：ちなみに、今、印西市内の小中学校は全部、ほとんど毎日ホームページを更新しており、それをしないといけないことになっている。今は年に 2, 3 回、必ず子供から親、先生方から学校経営について評価をされるが、ホームページに対する期待や意見も多く、意外と多くの方が見ているということを感じている。話を聞くと、勤め先で昼時に見ているということである。昔はテレビやラジオだったかもしれないが、今は自分の子どもの学校のホームページを毎日見ている。アクセス数も 80 万など、印西市の人だけではなく、それ以外も学校を細かく見ている人や、おじいちゃんおばあちゃんなど市外の人も見ている。今の親世代は子どもの教育にこんなに関心があるのだと、学校の責任者をやつて初めてしみじみと感じている。今の人たちは学校のホームページを見て、この学校は良いよねと狙い撃ちで引っ越してくる。学校も生き物なので、思っていた学校から変わってしまったたりもするが、今の人たちはそういうやり方をしている。そういうのは馬鹿にならないと思う。

委 員：情報発信の仕方が大事である。

委 員：意見が来るときは、文字が多い、読みにくい、もっと写真を載せた方が良いなど、本当に厳しい意見が来るが、一つひとつはためになる。最近は誰から見ても問題がないように作れるようになり、今は 2 年間やっていて良かったと思う。それだけ学校の宣伝になるし、SNS やホームページを見て来てくれる人がいる。

会 長：他にご意見がある方は。私も農業講座の講師や食育をやったりしており、子どもたちへの教室をやった方が良いと言っているが、一向に答えが返ってこない。今後私も後継者となる人を探して、引退したいと考えてはいる。それでは、人づくりについて他にご意見はないようなので、議題のその他へ移りたい

と思う。

(2) その他

会 長：事務局より何かあれば説明願う。

事務局：特にない。

会 長：事務局からは特になしということであるが、委員で何かある方は。

委 員：前回の委員会で地下道を掘るといった話があったが、市の方から何か話はあるか。アクションはあったのか。

事務局：もう工事は始まっていると思うが、前回ご説明した通り、市道と公園の下を通るといって、占有許可という申請が上がってくるため、その際には色々な条件を付けて工事をやって頂くというお話をしたと思う。今、現状としてはそこまで進んでいないということ、まだ話は入ってきていない。

委 員：深部を通るといって、環境への影響はあまりないのかもしれないが、地質の調査など、そういったものは公開してもらえないのか。こういう機会はなかなかないため、学術調査の様にはならないのか。

事務局：千葉ニュータウンエリアが主であり、もともと千葉ニュータウンエリアはかなりボーリング調査をやっており、どのくらいの深度なのかといった安全性は確認した上で、計画に沿ってやっていると思う。改めての学術調査というのは難しい。

委 員：ボーリングコアを残すなど、そういったことは考えられないのか。

委 員：もう工事に入っており、その前の地質調査は終わっている。

事務局：既存の資料と、実際に工事するところの調査は行っており、その上で始められていると思う。

委 員：何か資料を残す形ではなく、工事のためだけの準備ということか。

事務局：工事のための調査関連は施工者の方で保存していると思う。

委 員：過去の市内での工事に際した調査では、データが何も残っていない。今回も何もデータが残っていない形で終わってしまうのは勿体ない気がしている。実際には安全かそうでないかというのが一番大きなところかと思うが、もっとやったというような、データが残るようであれば良いと思う。

会 長：他にご質問等はないか。ないようなので、本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

事務局：次回審議会の日程については、正式な日程が決まり次第、ご連絡する。以上を持って、令和2年度第4回印西市環境審議会を終了とさせていただきます。

以上

令和2年度第4回印西市環境審議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和3年3月19日

印西市環境審議会 会長 岩井 誠